

サポートツール全国キャラバン2009「教材教具研修会」in 佐賀

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2010年2月21日

佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター
アバンセ 4階 第3研修室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：「元気塾」親の会（佐賀県発達障がい児・者の会）

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせて有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた支援に繋がる子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、身近な教材・教具を活用していく具体的な支援の普及を目的に研修会を開催する。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めていく予定である。

2009年11月の新潟市、今回の佐賀市での開催の続き、2010年度は秋田市・岐阜市・徳島市での開催が予定されている。

今回の佐賀市での開催は、「元気塾」親の会（佐賀県発達障がい児・者の会）が中心になって進めている。元気塾は小学生を子どもに持つ会員が多く、保護者のみならず学校現場で指導にあたる多くの教員の方々の参考事例としていただける。佐賀県での作業療法士との協議も始めており、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくための学校教育段階での連携も可能と思われる。多方面における専門家と連携し、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する場としたい。

【研修会開催要項】

日 時：2010年2月21日（日）10：00～16：30（9：30受付）

会 場：佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター

アバンセ 4階 第3研修室

佐賀県佐賀市天神三丁目2-11 どんどんどんの森内

プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員)

- 2、講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」
～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

講師 辻 薫 氏

(大阪府作業療法士会発達部門代表・日本作業療法士協会認定作業療法士・
大阪発達総合療育センターリハビリテーション部・
大阪市教育委員会特別支援教育専門家チーム)

- 3、ワークショップ

主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：「元気塾」親の会（佐賀県発達障がい児・者の会）

後 援：佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、
社団法人日本作業療法士協会、日本感覚統合学会、佐賀県作業療法士会

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用

～使い方で変わる教材の有効性～

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、

- * 子どもの視点から原因をさぐり、解決の糸口を提示していく流れを沢山の事例を通して具体的に話して頂きとても参考になりました。
- * 子どもによって様々な支援方法があること、その行動の背景には何があり、どのような要因があるのか、改めて勉強になり参考になりました。
- * 通級教室の役割について改めて反省勉強しました。)
- * たいへんわかりやすく興味深いお話であったという間でした。特性に沿ったという基本のところでは共感する点が多かったです。教材に関しても参考になる点が多くとても勉強になりました。
- * 具体的な内容でとても勉強になりました。校内体制のお話も聞きたかったです。教材の工夫の大切さや子どもの特性をしっかり理解して対応することが大事だと思いました。
- * 「大人がルールをやぶる」という所が一番印象的で、私たち大人や教員が子ども達を困らせているのだなと反省していく必要があると感じています。
- * とても分かりやすかったです。小学校は困難さが手にとるように分かる反面、中学校はノートをとらないテストは解答用紙のみでなかなか困難さが見えません。（私の力不足もありますが…）リセットの会、ちび数字などネーミングがチャーム。山田先生の話も軽快で明るく前向きに教えていこうという気持ちになりました。
- * 発達障害があっても、やりかたによっては、人は伸びる事ができるということ子どもの気持ちを考えながらやるということを学びました。もっと早く先生の講演を聴けたらどんなによかったかと思つづくと思いました。

「作業の力で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～」

報告者：辻 薫（大阪府作業療法士会 事業部発達部門代表）

1. 企画主旨

佐賀県では、小児領域の作業療法士のほとんどが肢体不自由児、重症心身障害児施設に所属しており、地域の小・中学校へ訪問するケースはほとんどなく、教育との連携については消極的な現状であった。

また、当事者、保護者団体との協力活動もまだ十分連携するには至らず、佐賀県作業療法士会の会員数も少ない実態のなかで、今後どのように特別支援教育に関わっていくことができるのか疑問の声が多かった。

こういった状況の中、教師や保護者の間で作業療法や作業療法士の認知度は低く、「作業療法とはどんなことをするのか」「作業をどのようにアセスメントするのか」「子どもの困難に対してどういった手立てを実施するのか」、また「作業療法士と連携するにはどうしたらいいのか」など、十分な説明と理解を促す必要があった。

そして、学校現場で作業療法士の専門性を生かしていただき、協力して子どものアセスメントを実施することで、困難の背景要因の分析がより細かく的確になり、個に応じた指導計画が充実すること、結果として学習成果につながりやすくなること、などを参加者に理解してもらうことをねらいとした。

2. 講演内容

昨年6月に大阪で開催したワークショップに佐賀県作業療法士会からも代表者1名に参加してもらい、今回実施する保護者、教師とのワークショップがどのようなものかイメージを持ち帰り、佐賀県作業療法士会員に伝達協力してもらうよう準備した。

当日17名の作業療法士が参加し、グループワークでの進行を助けていただいた。（これは佐賀県作業療法士会会員小児部門担当の半数とのこと）

また、この講演では、後半のワークショップでの事例検討を意識して、子どもの実態を分析し、グループで意見交換するための手がかかりや考え方の糸口を見つけるため、子どもの困難を模擬体験していただくプログラムとした。

作業療法士自身も「特別支援教育の目指す教育的支援」について理解するとともに、家庭と学校をつなぐ具体的な援助に踏み込む必要がある。「特別」ではなく「必要」な支援を進めることの重要性を理解し、子どもの生活を改善する作業療法士の視点が、学校や家庭にこそ必要とされていることを強調した。そして、地域、学校での作業療法の実現に一步踏み出す方略について提案した。

3. 結果報告

- ・ 12:50～13:00 ワークショップ形式で実施するためのグループ分けと席替えを準備した。
- ・ 13:00 講演開始～14:00終了
- ・ ワークショップを円滑に行うため、各グループに作業療法士を配置した。

- ・ 参加者は、1グループ約9～10人程度。
- ・ 辻より、「作業療法士の作業分析の視点」と大阪府士会のパンフレットから「よくある相談」のいくつかの項目を提示。基本的な課題の分析要素を提案した。
- ・ その後、午後の部の事例検討につながるように、「姿勢保持が難しい」「鉛筆をうまく持てない」「筆圧が強すぎる、弱すぎる」「雑巾がしぼれない」という子どもの困難について、なぜそれができないのか、困難の背景を説明し、子どもの様子を模擬体験することで、子どものしんどさの理解を促した。
- ・ 以上の体験を通じて、一方的な講義形式でいろいろなHOW TOを教えるのではなく、子どもの困難とその要因を体感し、子どもの心理に寄り添いながら次のステップとなる個に応じた手立てにつながる思考過程を促した。

会場からの質問：

Q：作業療法士の人数や雇用状況から、学校訪問は難しい現状がある。大阪ではどのようにして学校とつながるようにしたか、これまでの実践例を教えてください。(作業療法士)

A：作業療法士会活動は重要である。広報活動に力を入れること。リーフレットや事例集、ジャーナルなどの特集を組み、内外共にPRしていくこと。とくに大阪では、大阪府下全域の幼稚園、小・中学校に学校生活での援助マニュアルを配布した。

子どもと保護者向けや学校教員向けの相談会や研修会など公益活動を積極的に企画実施すること。

また、JDDネットワークでの協力活動も大きな力となる。保護者団体との連携で必要な支援が見えてくる。日本財団の助成により教材教具の紹介や開発、実証報告の募集が継続されている。これも重要な連携協力のひとつであり、一人の力でできる連携そのものである。ぜひ協力していただきたい。

ワークショップ 報告

ワークショップは、参加者を 10 グループに分けて、教師・作業療法士・保護者等が偏らないように配置しました。各グループの人員は 9 名～10 名で行われました。

はじめに「対象事例 1 本人」が教室で連絡帳を書いている所のビデオを 30 分程見た後、少し時間があつたので、「対象事例 2 本人」の漢字を書く所のビデオを見ました。その後、資料として、「対象事例 1（小学校 2 年・特別支援学級在籍）本人」の算数のテスト・連絡帳・絵日記、「対象事例 2（小学校 2 年生・通常学級在籍）本人」の漢字帳・漢字テスト、「対象事例外小学 2 年生」の算数テストが配布され、ビデオと配布資料からの気づきを各グループで意見交換後、グループごとに発表をしました。その後、各グループから出た気づきに対して山田先生と辻先生からの解説があり、最後に質疑応答で終了しました。

※ ビデオを見た後の意見交換の内容

(小 2・男児(1)・ビデオ 学校の様子)

- ・周りをうろうろする子どもがいて、集中できない。
- ・何度も書き直しをしている。
- ・消しゴムがうまく使えていない。
- ・手本が右においてある（右利き）ので見にくいのではないか。
- ・イライラしている様子が見られる。

※ テストの解答用紙を見ながら意見交換

(小 2・男児(1)プリント)

- ・かがみ文字がある。
- ・カタカナが苦手かもしれない。
- ・枠内に字をおさめるのは難しそう。
- ・算数は、式（文章）の計算は難しそう。（絵で表してある問題はわかっている）
- ・二桁の足し算 10 の位と 1 の位に分けて考えていたのに、途中から抜けている。
- ・文章問題の意味を読み取れていない。

(参考事例プリント)

- ・計算は良く出来ている。
- ・＝の後ろにある数字も全部足してしまっている。
- ・答えの単位を間違っている。
- ・問題に出てくる数字だけを見て、文章はよく読んでいない。
- ・狸の尻尾や、タコの足など、自分の概念に無いものは出来ない。

(小 2・男児(2)漢字プリント)

- ・字はよく覚えている。
- ・たまに線が抜けている。
- ・はねや、はらいが苦手、線が全部止まっている。

ワークショップの感想

「対象事例1本人」のビデオの様子は、まさに午前中の山田先生・辻先生の講演内容そのものの事例で、講演とワークショップがマッチングし、とても分かりやすい研修会となりました。山田先生から解説を受けた「対象事例外小学2年生」の算数プリントでは、解答の傾向、文字の位置から本人の特性を計り知る事ができる事を教えていただき、「テストを宝物にしてください。間違いを直していないテストが重要な支援の手がかりになる」と言われた事が印象的でした。

又、辻先生は、「対象事例1本人」のビデオの中で筆箱の位置関係に触れられ、見本を見にくい右側に置く理由として、「先生が位置を直しても本人が肘の下に持つてくるのは、筆箱を肘の下に置くことでバランスをとっている」という見方をされました。見本が右側にあって見にくいのに、指導者がなぜ直さないのかとの意見が多かった中、作業療法的な立場から見ると全く違う見方になると言う事がわかり、印象的でした。

成果

- ・教材教具を利用する事が、子供たちの学習支援において有効である事を、参加者で共通理解する事ができた。
- ・教育現場・医療現場・家庭が連携する事の必要性を再確認する事が出来た。
- ・教育的支援に作業療法的支援が加わる事で、支援の手立てが大きく広がる事を実感できた。

【アンケートのまとめ】

1 ご回答者の属性

(1)	保護者「元気塾」「夢気球」会員	5名
	一般	2名
(2)	教員 幼稚園	1名
	小学校	9名
	中学校	6名
	養護学校	7名
	その他	1名
(3)	作業療法士	5名
	医療	8名
	療育	3名
	福祉	1名
(4)	その他	4名
	合計	55名

2 本日の企画はいかがでしたか？

(1) 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」

～使い方で変わる教材の有効性～

- * 子どもの視点から原因をさぐり、解決の糸口を提示していく流れを沢山の事例を通して具体的に話して頂きとても参考になりました。そして解決等の中に子どもの意思も入っている部分（エピソードの中で）改めて大切なことだなと感じました。（作業療法士）
- * 子どもによって様々な支援方法があること、その行動の背景には何があり、どのような要因があるのか、改めて勉強になり参考になりました。今回教えていただいたことを訓練にも生かしていきたいと思います。（作業療法士）
- * 通級教室の役割について改めて反省勉強しました。子どもの何が原因かをきちんと見分けることの大切さを感じた。（教員小学校）
- * たいへんわかりやすく興味深いお話であつという間でした。私の勤務する学校には今回話された内容のような学習課題の児童は少ないのですが、特性に沿ったという基本のところでは共感する点が多かったです。教材に関しても参考になる点が多くとても勉強になりました。（教員養護学校）
- * 具体的な内容でとても勉強になりました。校内体制のお話も聞きたかったです。教材の工夫の大切さや子どもの特性をしっかり理解して対応することが大事だと思いました。（教員中学校）
- * 「大人がルールをやぶる」という所が一番印象的でどの様に私たち大人や教員が子どもたちにたずさわる中で自分たちがルールを作り勝手にルールを壊し子ども達を困らせているのだなと反省していく必要があると感じています。（教員養護学校）
- * とても分かりやすかったです。小学校は困難さが手にとるように分かる反面、中学校はノートをとらないテストは解答用紙のみでなかなか困難さが見えません。（私の力不足もありますが…）リセットの会、ちび数字などネーミングがチャーム。山田先生の話も軽快で明るく前向きに教えていこうという気持ちになりました。（教員中学校）

- * 発達障害があっても、やりかたによっては人は伸びる事ができるということ子どもの気持ちを考えながらやるということを学びました。もっと早く先生の講演を聴けたらどんなによかったかとおつくづく思いました。(保護者)
- * とても分かりやすく、いろいろなことを学ばさせていただきました。斜面台やクッションを使ったりすることで、子どもが勉強しやすい環境になることもよく分かりました。(教員小学校)
- * 実際の事例を挙げられながら、問題点と解決方法を教えて頂いてとても勉強になりました。具体的な見方や支援方法、気をつけなければいけない事を本当に分かりやすく教えて頂いたと思います。(作業療法士)

(2) 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

- * 書くことに対しこんなに考えた事がなかったので、今日子どもの書いている姿をもう一度たしかめていこうと思います。(保護者)
- * 姿勢についてのサポート手先の不器用さに対するサポート等大変勉強になりました。まだOTになって1年目ですが、今後多くの子どもさんと関わっていく中とても参考になりました。今後自分でも勉強していきたいと思います。(作業療法士)
- * 「作業療法」とは具体的にどんな内容なのかなあと思っていたので、詳しくお話をうかがうことができてよかったです。次は実際に体を動かしての体験ができたかなあとと思います。(教員小学校)
- * 今まで自分にはなかった新たな子どもの見方、困り感についてとても参考になりました。実際に体験したことで、困り感を実感することができました。(教員小学校)
- * 姿勢をくずして名前を書いたり、初めての経験でした。こんなに大変だとは思いませんでした。息子は宿題を寝転んだり立ったまましたりきちんと座って書けません。ですが何かヒントをもらった気がします。(保護者)
- * 教材使用で変わっていきけるとわかりました。消しゴムで紙をやぶくなどみられる子どもにマットなど使ってみようと思いました。(保護者)
- * 姿勢や鉛筆のにぎり方等が、子どもにとって想像以上に重要であることがわかりました。気をつけて観察してみようと思いました。(その他)
- * 体のバランス（動かし方）何となくできているけれど気になるということがあります。日常生活の中で自立に向けてできることを見なおして指導を組み立てて実践したいです。(教員中学校)

(3) ワークショップ

- * 実際にビデオやプリントで事例を検討しOTからの意見、教育現場の方々の意見、お母様方からの意見等リアルな意見を多く聞くことができ貴重な体験となりました。プリントだけでも多くの事を分析できることが分かり、今後改めて自分の症例さん方に向き合っていこうと思いました。(作業療法士)
- * グループごとにそれぞれの視点から話し合うことができて良かったと思います。講師の先生のまとめの中には、今まで気になっていた子どもの様子が何が影響しているかということにつながってもらうお話があり参考になりました。(教員中学校)
- * VTRとの組み合わせによって大変具体的に分かりました。私の身の周りにもたくさんいる子

どものタイプです。訓練と学習と分けたトレーニングすることの大切さ専門分野の知識を分野別に分担し総動員すると大きな力になると思えました。(教員中学校)

- * 子どものビデオを実際に見させてもらったのワークショップで、とても分かりやすくグループでの意見も言いやすかったです。子どもさんのテスト用紙なども見せていただき、本当に分かりやすく学べました。(教員小学校)
- * 実際に使われているテストや児童さんのビデオ等を使っのワークショップだったのでとても分かりやすく、どの様にして子ども達に対し支援すれば良いのか困っているのかが分かることができました。(教員養護学校)
- * 学校の先生や保護者と一つのもの(事例)を通して考えを出し合う機会は初めてだったのでとても新鮮で勉強になりました。「ネットワーク」の大切さ、重要さを感じました。(作業療法士)

(4)「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせください

- * 診断が適切な支援や理解につながるメリットとなるように福祉サービス(地域生活)就労支援、教育期間の手厚いサービス(少人数教育や快適な教室環境・個別指導のスペースの確保・受験時の配慮など)を行政的に責任を持って整備して欲しい。支援者の理解、研修は繰り返し、繰り返し計画してほしい。保護者向け、そして何より教員、管理職へは他の教育界の課題も多々あるが、常に全員研修してほしいし行政は責任を持ってほしい。(教員養護学校)
- * 特別支援教育の先生方が行われる指導はどのようなものなのか現状が知りたいとおもいます。(その他)
- * 自分も含めて支援する教師の勉強不足、力量不足を痛感します。一人でできることは限られているのでいろいろな分野との連携協力を望みます。(教員養護学校)
- * 現在、学校でかなり増えている発達障害のお子さんにかかわる先生方、その子の保護者支援も含めてたくさんの研修勉強が必要だと感じています。支援のし方で子どもは未来ある生活、学習をすることが出来ると感じました。(その他)
- * 親、先生、療法士が一同に会するのはめずらしいと思いますが、とても自然な形だと思いました。(教員中学校)
- * いろいろな立場の方が集まれたということで、今回の研修は意義あるものだったと思います。(教員小学校)
- * 病院から出ていくことが、難しい難しいと言っているだけだったので、ボランティアでできることを考えてとりくんでいきたいと思いました。(作業療法士)

